

～会長の時間～

【決議 23-34】

決議 23-34 は、「社会奉仕に関する 1923 年の声明」として「手続要覧」に掲載されています。一般的に決議 23-34 といわれているのは、これが、1923 年に開催されたセントルイス国際大会に提出された第 34 号議案であったからです。

決議 23-34 はなぜ重要なのか？

最初の理由は、決議 23-34 はロータリーの奉仕理念を確定した唯一のドキュメントだと言うことです。私たちは好んで Ideal of Service 奉仕の理想という言葉を使います。私は敢えてこれを奉仕理念と訳していますが、数多いロータリーの公式文献の中で奉仕理念について触れているのは決議 23-34 のみです。従って、決議 23-34 を理解すれば、ロータリーの奉仕理念すなわちロータリーの哲学を理解することができるのです。

ロータリーには二つの奉仕理念があります。一つは他人のことを思い遣り、他人のために尽くそうという国際社会を含んだ対社会的奉仕活動に関する理念であり、私たちはこれを Service above self というモットーで現しています。もう一つは科学的かつ道徳的な経営方針によって、自分の事業や同業者の事業の発展を図ると共に、業界全体のモラルを高めていこうという職業奉仕の理念であり、私たちはこれを He profits most who serves best というモットーで現しています。ロータリーにとってもっとも大切なこの二つの奉仕理念を定義している唯一のドキュメントが、この決議 23-34 なのです。

二番目に重要なポイントは、決議23-34はロータリーにおけるすべての活動の指針であり、すべての活動をコントロールする規範となるドキュメントであるということ。この決議案がセントルイス国際大会の決議委員会によって提案されたのは1923年6月21日のことですが、その際のタイトルは、「綱領に基づく諸活動に対するロータリーの方針を再確認し、国際ロータリーとロータリークラブにおける今後の手引きとなる原則を定めること」でした。このタイトルからも、この決議23-34はロータリーにおける綱領に基づくすべての活動、すなわち四大奉仕すべてを規制するドキュメントであることが判ります。

決議 23-34 の内容

- 第一条 ロータリーの奉仕理念の明確な定義
- 第二条 ロータリークラブの役割
- 第三条 R I の役割
- 第四条 ロータリー運動について
- 第五条 クラブ自治権
- 第六条 社会奉仕実践の指針

